

機関番号：32686

研究種目：基盤研究（B）海外

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19401015

研究課題名（和文） アジアの無形文化における仮頭の研究—仮面との比較から—

研究課題名（英文） A Study of “KATO(alternative head)” in the Asian Intangible Culture:
In Comparison with the Masks

研究代表者

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40219184

研究成果の概要（和文）：

日本の伎楽面のように頭部を覆う仮頭は、顔につける仮面と区別されずに仮面研究の中に埋もれ、長らく死角となってきた。アジアに現存する仮頭を用いる芸態の調査、資料収集、分析により、仮頭の属性は仮面の仮装性とは異なり、「頭を挿げ替える」ことにあり、民俗・宗教的な文脈にのみ存在することが判明した。また仮頭を用いる存在は、民俗・宗教の相違を超えて空間を移動する点から人間の原初的な世界観という新たな課題を得た。

研究成果の概要（英文）：

KATO (alternative head), such as a head worn by the actors performing in Japanese *Gigaku*, envelops the head, where a mask covers their face. *KATO* has not been marked off from mask and has been a blind spot in the study of masks. We studied the existing types of artistic performance using *KATO* in Asian countries, collected and analyzed the data. As a result, it has become clear that the essential property of *KATO* lies in the fact that it “replaces the head” and it is different from that of mask that offers a disguise by wearing it. Furthermore, as an existence wearing *KATO* moves in space transcending the difference of race and religion, we have a new theme of study, “a primitive human outlook on the world.”

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2009 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	11,000,000	3,300,000	14,300,000

研究分野：演劇学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：仮頭、仮面、無形文化、アジア、身体表現、芸能、民俗、祭礼

1. 研究開始当初の背景

(1) 伎楽面

日本演劇史の源流に位置づけられる外来

芸能の中で、最古に伝来した伎楽は仮頭である伎楽面を用いる。伎楽面は現存するものの、伝来ルート、伝来時の芸態などが不詳のまま

で謎が多い。

(2) 中国「戯曲」の「行当」及び川劇の覇児臉

中国の「戯曲」における役柄類型「行当」の中で、耳と頭頂部をつなぐ線より鼻側全体を化粧面とする「浄」は、行当の中でも最古のもの1つである。川劇には、仮頭を用いるもの、仮面を用いるもの、顔の上半分のみ仮面から「浄」の化粧に移行した「覇児臉」がある。覇児臉は顔の下半分は「俊臉」と呼ばれる美男系の化粧を施すが、人物が成長するに従い浄の化粧面部分が大きくなり、成人後は全面が浄の化粧になる。こうした事例の分析から、仮頭を用いる役柄の限定性、仮頭、仮面から化粧への移行などに関する研究を行った。

(3) 仮頭と仮面

上記(1)(2)を踏まえ、発展した仮面研究の成果を眺めると、仮面の属性として抽出された要素の中で、最も中心的な属性である仮装性を仮頭が共有しているのだろうか、という疑問をもつに至った。日本ばかりでなく、東アジア、またヨーロッパにおいても仮面と仮頭は区別されず、「仮面」として研究されているが、仮頭を対象を絞った研究はまだない。

2. 研究の目的

本課題は、仮面研究の成果を享受しつつ、仮面との比較研究の手法も用いて仮頭の属性について研究し、仮面研究の死角となってきた部分を埋めるのを目的とした。目的を達成するために、以下の2つを設定した：

(1) 仮頭の属性を仮面との比較から解明する。

アジアで現在も実見できる仮頭と仮面を用いる、あるいは仮頭と仮面、化粧面を用いる無形文化を対象を絞り、その芸態における仮頭の機能など芸態自体の調査、及び芸態を伝承する共同体の歴史、社会構造、芸態を伝承するシステムなどの諸要素についても調査、資料収集、分析・検討を行い、動態としての仮頭とそのあり方を立体的に把握する。

(2) 仮頭のデータ収集・整理

仮頭の撮影、形状・サイズ・重量等の計測を行い基礎資料を作成する。

3. 研究の方法

(1) 個人：分担テーマ別に収集資料、文献資料等に基づく分析

(2) 共同：現地調査

- ① 芸態の継承者への聞き取り調査（歴史、養成法、共同体における位置づけ、約束事など）
- ② 無形文化として現存するアジアの仮頭を調査対象とし、芸態の記録撮影、仮頭の計測、撮影を実施。対象：

- ・インド・ケーララ州 クンマテイ、プリカリ
- ・宮古島 パーントゥ
- ・ブータン ツェチュの仮頭
- ・中国チベット族自治区ラサ、ラモの仮頭
- ・韓国 河西別神仮面劇の仮面
- ・モンゴル フレーツァムの仮頭

(3) 研究会

各自の分担テーマの成果報告、意見交換、成果の共有。

(4) シンポジウム

中間成果報告会として成果の公開。

(5) レクチャー&デモンストレーション

成果を一般向けに分かりやすく公開し、仮頭及びチベット仏教チャムの地域差・歴史的経緯差による多様性、すなわち同宗教であっても文化差が存在することへの理解を深める機会を提供。

4. 研究成果

(1) 主な成果

① アジアで実見できる仮頭及び日本に伝承されている仮頭である伎楽面などの形状から仮頭の形状の定義を行い、仮面との区別を明確にした。

② 仮頭を用いる存在と仮面を用いる存在の機能の比較により、仮頭は仮装性よりもそのものに成り変わる、すなわち「挿げ替える頭」という属性をもつことを抽出した。

③ 仮面が宗教・民俗的文脈と娯楽的な文脈を比較的容易に移動するのに比し、仮頭は宗教的・民俗的文脈を脱局できないこと、また、仮頭を用いる芸態は、共同体において組織面における諸機能を担うことが判明した。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

仮頭に特化した研究は学問諸分野で発展を見た仮面研究において益するところがあると考えられる。また、着ぐるみなどの現代文化研究、及び日本演劇史の源流に位置づけられる伎楽研究など広がり大きい。4年の研究活動期間内には中間成果報告としてシンポジウム、公開研究会、レクチャー&デモンストレーションを行ったが、今後はこの活動によって得たあらたな知見と、課題に対する継続的な研究により、研究組織メンバーが各自の専門分野において具体的に成果を蓄積していくことにより、動きを導き出せると考えている。

(3) 今後の展望

本研究活動では、仮頭の大きさ及び国家における機能という問題についても、仮説を得るに至ったが、視界をアジア限定したことによる弊害も同時に確認できた。今後は視界をユーラシア大陸に広げ、宗教・民俗に関わり

なく、仮頭と仮頭を用いる存在が行列によって空間を移動することに注目し、文化圏を超えた人間の原初的な世界観についての研究へと展開していく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

1. 細井尚子「伎楽に関する一考察—中国の仮頭及び仏教から—」『アジアの無形文化における仮頭の研究—仮面との比較から』立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 3-15 2010
2. 竹本幹夫「中世芸能面における仮頭性の喪失」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 16-22 2010
3. 板谷徹「仮頭と行道」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 23-30 2010
4. 中野照男「壁画に描かれた尊像と芸能に使われた仮頭の表象の比較」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 31-56 2010
5. 山本宏子「チベット仏教芸能チャムにおける舞具としての太鼓—ブータンのツェチュ祭のチャム—」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 67-87 2010
6. 上田信「中国青海省レプゴンのチベット族の祭祀と生態環境」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 88-103 2010
7. 粟屋利江「ケーララ (インド) におけるクンマーティの歴史的・社会的位相を考える」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 104-113 2010
8. 稲葉明子「仮頭調査から見えてきたこと—2007年のインド・ケーララ地区を中心に」立教大学アジア地域研究所 査読なし pp. 114-122 2010
9. 粟屋利枝「女たちのラーマーヤナ」竹村和子・義江明子編『ジェンダー史叢書 3 思想と文化』明石書店 査読無 pp. 188-190 2010
10. 粟屋利枝「近代から現代へ」下田正弘編『新アジア仏教史 第3巻インドの宗教と社会』佼成出版 査読無 2010
11. 上田信『放送大学大学院文化科学研究科教材：東アジアの歴史と社会』吉田光男編 放送大学教育振興会 第5~10章 査読無 pp. 77-181 2010
12. 上田信「ドラマ化される史跡—海域アジアと五島列島」『中央評論』62-1 中央大学出版 査読無 pp. 26-34 2010
13. 上田信「生態環境史の視点による地域史の再構築—生物多様性の歴史的变化研究のための史料について」『アジア遊学 136 環境と歴史学：歴史研究の新地平』勉誠出版 査読無 pp. 96-103 2010
14. 細井尚子「关于琉球上演的中国戏剧」『戏剧艺术』152号 上海戏剧学院 査読無 pp. 25-30 2009
15. 細井尚子「关于琉球剧文和解」(共著)『戏剧艺术』152号 上海戏剧学院 査読無 pp. 10-13 2009
16. 上田信「タカラガイと文明—東ユーラシア」『地球環境からの問い—ヒトと自然の共生とは何か』池谷和信編 岩波書店 査読無 pp. 137-152 2009
17. 細井尚子「仮頭を用いるアジアの諸芸能—日本の伎楽を起点に—」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」予稿集 立教大学アジア地域研究所 査読無 pp. 25-31 2009
18. 竹本幹夫「中世芸能面の仮頭性」同上予稿集 査読無 pp. 32-34 2009
19. 山本宏子「ブータンのチベット仏教チャムにおける太鼓の象徴と機能」同上予稿集 査読無 pp. 58-65 2009
20. 中野照男「壁画に描かれた仏像と芸能の仮頭の表象比較」同上予稿集 査読無 pp. 66-73 2009
21. 稲葉明子「芸能素材データベースの留意点—仮頭調査からみえてきたこと」同上予稿集 査読無 pp. 74-80 2009
22. 粟屋利江『英領期ケーララの広告分析—20世紀前半における消費への「誘い」』『消費パターンと長期変動と社会構造・社会意識—南インドの事例を中心に』柳澤悠編 査読無 pp. 101-114 2009
23. 細井尚子「中国仮面劇の諸相」早大演劇博物館グローバルCOE 紀要 演劇映像学 2008 別冊報告集 査読無 pp. 65-72 2008
24. 板谷徹「琉球文化における仮面芸能」早大演劇博物館グローバルCOE 紀要 演劇映像学 2008 別冊報告集 査読無 pp. 189-195 2008
25. 竹本幹夫「散楽と仮面」早大演劇博物館グローバルCOE 紀要 演劇映像学 2008 別冊報告集 査読無 pp. 3-12
26. 細井尚子「観劇行為における劇場」文科省学術フロンティア推進事業「阪神・淡路大震災後の地域社会との共生をめざした大学の新しい役割に関する実践的研究」報告書第28号『地域と共生する大学の確立へ—これまでの成果と今後の展望』神戸学院大学地域研究センター 査読無 pp. 37-42 2008
27. 中野照男「敦煌文書の真贋をめぐる覚書」『日本美術史の杜 倉重寧先生星山晋也先生古希記念論文集』竹林舎 査読無 pp. 460-472 2008
28. 山本宏子「ケーララ州クマティー祭の楽弓オーナムビル」『全日本郷土芸能協会』会

- 報 50 号 査読無 19 頁 2007
29. 細井尚子「中国文化におけるジェンダーの表象に関する研究実践報告—連の越劇イベントについて—」(共著) 査読無 神戸学院大学人文学部紀要26号 pp. 119-195 2007
 30. 細井尚子評論「歩き、踊る地の神クマティ」『第3回フェスティバル拍』(第4回岡山県民文化祭協賛事業)プログラム 査読無 2007
 31. 上田 信『東ユーラシアの生態環境史』山川出版社 査読無 90頁 2007
 32. 中野照男「キジル石窟の仏伝図」『芸術学フォーラム4 東洋の美術』山岡泰造・肥塚隆・曾布川寛編 勁草書房 査読無 pp. 76~100 2007

[学会発表] (計 27 件)

1. 山本宏子「チベット仏教芸能チャムにおける太鼓の機能と象徴性—ブータンのツェチュ祭のチャム」民族芸術学会 第121回研究例会 2011年2月26日 京都国立近代美術館講堂
2. 細井尚子「伎楽に関する一考察—中国における仮頭及び仏教」日本演劇学会 秋の研究集会 2010年11月7日奈良県猿沢荘
3. 細井尚子「仮頭を用いるアジアの諸芸能—日本の伎楽を起点に—」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
4. 竹本幹夫「中世芸能面の仮頭性」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
5. 板谷徹「仮頭と行道—沖縄のミルクその他」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
6. 山本宏子「ブータンのチベット仏教チャムにおける太鼓の象徴と機能」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
7. 上田 信「中国青海省レプゴンのチベット族の祭祀と生態環境」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
8. 中野照男「壁画に描かれた仏像と芸能の仮頭の表象比較」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
9. 稲葉明子「芸能素材データベースの留意点—仮頭調査からみえてきたこと」国際シンポジウム「日本伎楽とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—」立教大学 2010年1月17日
10. 竹本幹夫「日本の散楽・猿楽が鑑賞される場について」日中舞台構造比較研究会 2009年12月11日 早稲田大学
11. 竹本幹夫「能—演劇的なるものとは—」国際シンポジウム「演劇・舞踊・芸術環境—日仏演劇交流の20世紀」第一日・巨匠たちとの出会い 2009年11月25日 パリ・世界文化会館
12. 竹本幹夫「失われた歴史—観世元雅考」早稲田中世の会 2009年11月7日 早稲田大学
13. 竹本幹夫「日中演劇交流の歴史」(招待講演) 上海市文化芸術档案馆・演劇博物館共催「日中演劇交流の歴史展」記念公演 2009年10月11日 上海美術館講義室
14. 粟屋利江「英領期インドのメディア広告分析—20世紀前半における消費への『誘い』」日本南アジア学会第22回大会、セッション「消費パターンの長期変動と社会構造・社会意識」 2009年10月4日 北九州市立大学
15. 中野照男「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」東京文化財研究所第43回オープンレクチャー 2009年10月3日 東京文化財研究所
16. 竹本幹夫「フェノロサ、逍遙と能楽」(招待講演)日本フェノロサ学会第30回年次大会記念講演会 2009年9月26日 早稲田大学
17. 竹本幹夫「舞踊劇としての能—能における舞踊の役割を中心に—」(招待講演)国際会議「日本の前衛芸術」2009年9月15日ベネツィア大学
18. 中野照男「敦煌文書とアーカイブ」(共同発表)第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 “オリジナルの行方” 2008年12月8日 東京国立博物館平成館講堂
19. 細井尚子「关于运用假头及相关空间之考察」東方戯劇与劇場国際學術研討会 2008年10月20日 中国山西省山西師範大学
20. 竹本幹夫「猿楽演出与舞台」東方戯劇与劇場国際學術研討会 2008年10月20日 中国山西省山西師範大学
21. 稲葉明子「河南省大平調唱詞与舞台表演的差異—堂会<趙匡胤困河東>」非物質文化遺產保護視野下的傳統戯劇研究国際學術研討会 2008年10月11日 中国広州市中山大学
22. 粟屋利江『「植民地近代性」を考えるととは?』日本南アジア学会設立20周年記念連続シンポジウム第6回 2008年6月

- 23日 東京大学
23. 細井尚子「中国における仮面芸能の諸相」(基調講演) 国際研究集会「散楽と仮面」
2007年12月8日 早稲田大学
 24. 板谷徹「琉球文化における仮面芸能」 国際研究集会「散楽と仮面」 2007年12月8日 早稲田大学
 25. 竹本幹夫「散楽と仮面」(基調講演) 国際研究集会「散楽と仮面」 2007年12月7日 早稲田大学
 26. 粟屋利江「歴史研究/叙述に賭けられるもの：実証と表象の溢路を超えて」日本南アジア学会設立20周年記念連続シンポジウム第1回「南アジアという方法と視角：比較と連鎖」2007年11月24日 京大会館
 27. 粟屋利江「『サバルタン・スタディーズ』と社会史の可能性：植民地期インド史研究の動向から」メトロポリタン史学会大会 2007年4月21日 首都大学東京

[図書] (計2件)

1. 竹本幹夫『風姿花伝・三道』(角川ソフィア文庫) 角川学芸出版 2009 447頁
2. 山本宏子『中国泉州「目連」木偶戲の研究』 春秋社 304頁 2007

6. 研究組織

(1) 研究代表者：

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：40219184

(2) 研究分担者

粟屋 利江 (AWAYA TOSHIE)
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：00201905

板谷 徹 (ITAYA TORU)
沖縄県立芸術大学・芸術文化学研究科・教授
研究者番号：20130867

竹本 幹夫 (TAKEMOTO MIKIO)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：90138181

中野 照男 (NAKANO TERUO)
独立行政法人東京文化財研究所・副所長
研究者番号：20124194

上田 信 (UEDA MAKOTO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：90151802

稲葉 明子 (INABA AKIKO)
立教大学・ランゲージセンター・教育講師
研究者番号：50298197

山本宏子 (YAMAMOTO HIROKO)

岡山大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：70362944

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

宮本万里 (MIYAMOTO MARI)
北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員
研究者番号：60570984